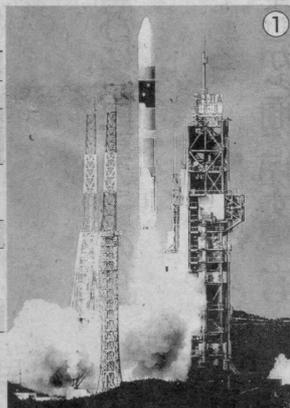


H2A/Bロケットの歩み

1996年 4月	H2Aロケット開発開始
98年 2月	H2-5号機失敗
99年 11月	H2-8号機も失敗で運用終了、H2Aへの移行決定
2001年 8月	H2A・初号機打ち上げ成功①
03年 11月	6号機の打ち上げ失敗②
05年 2月	7号機で気象衛星「ひまわり6号」打ち上げ成功
9月	強化型のH2B開発開始
07年 9月	月周回衛星「かぐや」打ち上げ。三菱重工に打ち上げ事業を移管後初③
09年 9月	H2B・初号機打ち上げ成功
10年 5月	金星探査機「あかつき」打ち上げ
14年 4月	後継のH3開発開始
12月	小惑星探査機「はやぶさ2」打ち上げ
15年 11月	カナダから受注した通信放送衛星打ち上げ
17年 6月	測位衛星「みちびき2号」打ち上げ。同年8、10月に同3、4号も
20年 5月	H2B・9号機打ち上げ。全9機成功で運用終了
23年 3月	H3・初号機打ち上げ失敗
9月	X線天文衛星「XRISM」と月着陸機「SLIM」打ち上げ
24年 2月	H3-2号機で初の打ち上げ成功④
25年 6月	最終50号機の打ち上げ



天気予報から小惑星探査まで 打ち上げ衛星さまざま

気象観測や測位、通信など日々の暮らしに役立つ実用衛星から、国際宇宙ステーション（ISS）に物資を届ける補給船、宇宙や生命の謎を解き明かす探査機まで。H2Aと強化型のH2Bの両ロケットは多種多様な衛星を宇宙ま

「いぶきGW」はJAXAと環境省などが開発した衛星で、これまで2種の衛星に搭載されてきた二酸化炭素などの温室効果ガスを観測するセンサーと、降水量や海面水温など地球上の水循環を観測するセンサーの両方を搭載。温室効果ガスの削減に向けた取

り組みや、気候変動予測などの基礎となるデータを収集する。ロケットから分離後、太陽電池パネルを展開。衛星の状態は正常だという。今後、3カ月ほどをかけて観測用アンテナの展開や機能確認を進めていく。

商業受注にも道筋を付けた。探査機や天文衛星が大型化する中、月周回衛星「かぐや」や、小惑星「りゅうぐう」から砂などを持ち帰った「はやぶさ2」も軌道に届けた。「SLIM」による日本初の月面軟着陸の一翼を担った。

油井さんも「感謝」

で届けた。H2Aでは、気象衛星「ひまわり」を計4基打ち上げた。先代のH2ロケットが1999年、後継機の打ち上げに失敗。日本の気象衛星が一時不在となっていたことから、2005年にH2Aとして最初となるひまわり6号が無事軌道に投入されると、気象庁関係者は喜びに沸いた。日本版の地球測位システム（GPS）を実現する「みちびき」も10、21年に計5基を投入。17年には2カ月おきに3基続けて打ち上げた。07年の13号機から三菱重工に打ち上げ業務が移管されると、海外からも受注。韓国の観測衛星やアラブ首長国連邦（UAE）の探査機、カナダ企業の通信衛星などを打ち上げ、後継ロケットのH3の輸送能力を引き上げたH2Bは、物資補給機「こうのとり」（HTV）を9機連続でISSに届けた。15年のISS滞在中にこうのとりを迎えた宇宙飛行士の油井亀美也さん（55）は、「長い間活躍してくれた素晴らしいロケット。私たちが宇宙に行けるのは、（H2Bが）ISSに貢献した対価としてなので、その技術力には本当に感謝している」と語った。